

方言の 祖母のあやめ 七五三 忠文	神戸市会議員 うらがみ忠文新聞	2014年 秋・冬号
-------------------------	--------------------	---------------

# お役に立てることは、ありませんか。

- 悲しいことですが、世界中で紛争が絶えません。カザだったか、シリアだったか、ウクライナだったか忘れましたが、ヨーロッパ系のボランティアの女性が、家族を失った子どもたちにチョークを渡して「好きな絵を描いてごらん」と言いました。
- ひとりの少年が、地面に線を引き始めました。何だろうと思って見ていると、大きなお母さんの絵を描いたのでした。そして、お母さんの絵に寝転がりました。彼の顔には、おぼろげなほほえみが浮かんでいました。
- 女性は、しばらく寝転がらせていました。やがてしっかり抱きしめました。少年の目からは、涙があふれ出て止まりません。しかし、彼の悲しみは、半分ぐらいになったことでしょう。



神戸市民でも、誰でもが口には出しませんけれど、なんらかのつらさや悲しみを抱えておられることと思います。そんな市民をしっかりと見据え、暖かく抱きしめて、希望ある生活を築き上げ、個々人の成長に尽くすことが政治や行政の仕事の出発点だと考えます。  
 市役所や議会と共に、私も熱い心で、まっぐらに取り組んでまいります。

「この世に生まれたからには、人のお役に立ちたい！」と行動する人々で満ち溢れている社会を作るのが、政治の仕事です。

## 【私は、やります】

- 1、「市民と行政」が、がっぷり4つに組んで、地域の活力を引き出す。
  - ・市職員は、もっと町に出て市民の話を良く聞くこと。
- 2、「神戸の元気」を創りだす。
  - ・市役所は、民間と共に、とにかく「仕事を生み出す」ことに突進。
  - ・「何歳になっても、身体が動く限り働きたい」と言われる高齢者の方が、40%おられます。高齢者の就労支援に全力。
- 3、「おせっかいな神戸」を取り戻す。
  - ・昔と違って、困ったときに相談する人が、身近に見つからない時代になってきました。
  - ・福祉は行政の最大の仕事です。生活の「悩み、苦しみ」に力強く応える市役所に！

## ただふみ うらがみ忠文

- ・1969年 慶應義塾大学法学部政治学科卒
- ・元、大丸神戸店「くじやく通信」編集長
- ・元、神戸市立御影北小学校 PTA 会長
- ・NPO 法人 障がい者就労支援作業所理事
- ・1995年 神戸市会議員初当選
- ・2011年 神戸市会議員5選
- ・無所属。所属会派「住民投票☆市民力」団長

もっとも弱い立場の人が  
 幸せでなければ、  
 神戸は、  
 幸せになれません！



# 毎日毎日、浦上忠文（うらがみただふみ）は、 市民の皆さんに語りかけています。

パソコンでも  
携帯電話でも  
Facebook（フェイスブック）でも

浦上忠文

検索

※浦上忠文で検索してください！

浦上忠文の願いは、毎月1日更新のホームページを見て頂いて、  
左上の「毎日更新 うらがみ忠文ブログ」をクリックして読んでくだされば嬉しいですよ。



自画像です！

## ●皆さんを元気づけようと、本も書いています。

61の短いお話集「勇気が生まれる 心の忘れもの」  
より...

### 冬ぶとん

歩いても歩いてもお月さまはついてきます。  
立ち止まると、お月さまも止まります。  
後に戻ると、お月さまも戻ります。  
「どうしてお月さまは、ぼくについてくるの」  
おそくなった帰り道、  
おじいさんにたずねてみたりします。  
深まり行く秋の、澄みきった夜空に、  
月はしんと輝いています。  
その夜、家に帰ってみると、  
窓のカーテンが部厚いものに変えられていました。  
次の日、幼稚園から帰って来ると、  
お茶の間にこたつが出されていました。  
裏道から見えかくれする六甲山では、  
ところどころがまっ赤に紅葉しはじめました。  
朝がたからの冷たい風がやんで、  
ぽかぽか暖かくなった午後、  
家に戻ると、

陽の良く当たる縁側いっぱい  
お母さんがぶとんを出しておられました。  
大きなぶとんです。  
ふわふわした冬のぶとんです。  
声をあげてぶとんに倒れこみました。  
「これっ」  
と言いながら、  
お母さんもふざけて寝ころびました。  
陽をいっぱいを受けて、  
柔らかくふくらんだぶとんの匂いが立ち昇ります。  
しあわせです。  
子どもになったお母さんは、  
とても若々しく見えたが、  
いつものお母さんではなく、  
なぜか、遠いところの人のようにも  
思えるのでした。